

優勝を果たした大曲工高の生徒と山崎教諭



大曲工高 7年ぶり優勝

全国コンクリートカヌー大会

手作りのコンクリート製カヌーで速さを競う「第29回土木系学生によるコンクリートカヌー大会」（土木学会関東支部主催）が、東京都江東区の海の森水上競技場で開かれ、大仙市の大曲工業高校が7年ぶり4度目の優勝を果たした。

大学・高専の部に9校9チームが参加し、8月3日に実施。カヌーの構造や工夫した点などを競う書類審査部門と、2人乗りカヌーをこいでタイムを争うレース部門の合計点で順位を決めた。

大曲工高のメンバーは土木・建築科土木コース3年の細井彩稀主将、齋藤萌衣さん、坂本光希さん、高橋凌駕さん、加藤脩称さんの5人。書類審査では高校15

土木・建築科の5人

チーム中1位を獲得した。レースは大学・高専も含めた全チームで行い、予選は2位、準決勝は1位で通過。420分のコースで競う決勝は坂本さんと高橋さんが乗って1位でゴールした。

5人は課題研究の授業の一環で5月に作業を開始。カヌーは、試行錯誤を重ねて配合を調整したコンクリートを型枠に塗り付けて制作した。型枠にアルミを使ったり、発泡剤を入れて空

気量を増やしたりして60センチまで軽量化。型枠に鉄筋を使った従来型より8センチ軽くし、スタート時に加速しやすくなるなど工夫した。7月中旬に完成させ、その後、5人でレースの練習を主川で重ねた。

細井主将は「本番は緊張したが、優勝できてうれしかった。活動は充実していた楽しかった」、坂本さんは「地道にカヌーを作った経験を生かして今後も頑張りたい」とそれぞれ話した。

2004年から同校を指導している山崎教諭（64）は「生徒の持久力の高さもあり勝つことができた。久しぶりに優勝できてうれしい」と喜んだ。

（佐藤将弥）